話題　其の８：**21世紀の憂鬱な幕開け**

毎日当地時間で午後４時にＮＨＫワールド放送「ニュース 10」が始まります。昨日もキャスターがいつもの笑顔で番組を初めたのですが、急に臨時ニュースに変わり、ニューヨークの貿易センタービルの炎上が映し出されました。キャスターとアメリカ特派員との生のやり取りの最中に、2機目の旅客機がもう一本のビルに突っ込む様子が、まるでコンピューターゲームの画面のようにさりげなく映し出されました。見ているこちらも現実の出来事だと認識するのに少し戸惑う光景でした。５時間、６時間とテレビの前に釘付けされた状態が続きました。番組途中にPFLP（パレスチナ解放人民戦線）が犯行声明を出しましが、その後ヨルダン川西岸にあるPFLPの本部から、スポークスマンによる犯行声明と事件への関与を否定する声明が出されました。ちょっと安堵しました。

私の派遣元であるJICA（国際協力事業団）のヨルダン事務所からも電話連絡が入り、１）必要以外に外出を控えること　２）国内、国外の旅行を控えること　３）人が集まっている場所に近づかないこと　４）ニュース等で情報を入手し状況判断するように　５）携帯電話を常に手元に置くこと　が指示され、急に緊張感が増すのを感じました。

一夜明けて、通勤途中に毎日イスラエル大使館前を通るので様子を見たのですが、日常と何ら変わるところはありません。多分、キーフ　ハーレック読者の多くは「アメリカでの同時テロとパレスチナがどう関係してくるのか？」疑問が多いと思われます。私自身もここにきて、其の背景が少しずつ解ってきたような気がします。とにかく背景は複雑で説明は困難ですが、一面として、私の職場に勤務するスタッフの多くはアメリカ嫌いです。その理由は、大雑把に言って「アメリカがパレスチナ難民をつくったイスラエルという存在を支援する」からです。

今回の事件でまた「イスラム」という語句が悪いイメージで人々の心に定着して行くことでしょうね。テロを実行したのは今の時点では解りませんが「イスラム過激派によるテロ」との見方が強いですね。この見方によって「イスラム＝恐怖や悪」となるのが心配です。私自身も、ここに来る前は「イスラム」という言葉に多くの偏見を持っていました。でもここに暮らして５ヶ月ですが、この漠然と捉えていた「イスラム」が決して悪いものでは無いと感じています。今回の通信では職場や私的なイスラム教徒の友人達をそういう偏見から守りたくて急遽書いています。

今朝は、いつもになくパレスチナ人の同僚が私の顔色を伺いに来ました。そのうちの４人から昨日のテロ事件に対する意見を私なりの解釈で紹介します。

Ａさん：貧しいパレスチナをイスラエルが武装攻撃しているように、アメリカもまた貧しい国を食い物にしている。今回のテロリストは貧しい者の味方だろう。

Ｂさん：日本赤軍が絡んでいるというニュースもあるから気をつけてね。（どうやって？）

Ｃさん：これは誰かが経済効果を狙っているんだ。ドルが下がれば金とオイルが上がるからね。

Ｄさん：米国内の過激派の仕業だと思うわ。だって犯人は内情に詳しいでしょう・・・。

ここで、大国（多分日本も含めて）の横柄な態度をひとつ紹介します。いずれも朝日新聞からです。8月1日：「ブッシュ大統領は7月31日、イスラエルとパレスチナの衝突が再び激化したことについて記者団に『米国は今後も双方に暴力の自粛を呼び掛け続ける』と述べた」　8月22日「世界の武器売却市場で米国からの輸入品が約半分のシェアを占め、ロシア、フランスなどを含めた全輸出額の約7割を開発途上国が購入している・・・」このふたつの記事どう思いますか？

近頃は「復讐」という言葉が私の頭の真ん中に居座っています。イスラエルとパレスチナの際限のない復讐劇はほぼ毎日のように続き、今後しばらくは「誰がテロリストで、アメリカや友好諸国がどんな復讐をするのか？」人々はメディアに引っ張りまわされることでしょう。この復讐の代価として多くの市民を巻き添えにすることでしょう。

残念ながら私の職場でも、「復讐の正義性」を語る人は居ても「子供の将来の幸せを考える」という教育（教育局）の目的については誰も語りません。　　＜テロの被災者に黙祷＞

****

執筆及び編集：久米　篤憲